

令和の即位

二〇一九年、三十一年目の平成が終焉を迎え、令和に改元された。幕末の光格天皇以来の讓位（退位）が行われたことは記憶に新しい。皇室典範第四条に「天皇が崩じたときは、皇嗣が、直ちに即位する」とあるように、現行の制度において天皇は生前退位することができず、今般の天皇退位は「おことは」を契機としての特例であった。

一連の経緯を日本国民は歴史の証人として目撃することになったが、退位した天皇をどのように呼ぶか、ということが議論の対象となった。結局、太上天皇ではなく、上皇となり、美智子皇后は上皇后となった。この「上皇后」という称号は、日本史を研究し、皇太后になじんでいる私にとって、やや違和感のある表現だった。読者諸賢はどうだろうか。

いずれにしても、日本の近代史でも先例がない天皇退位という歴史的瞬間を二十一世紀の今日において我々が目撃できたことは、極めて大きな歴史的意義を有するといえる。加えて、天皇だけでなく、太上天皇・皇后といった身に注目が集まったことも、今後の皇室をどのように考えていくか、という注意喚起につながったのではないだろうか。

現代の皇室を考える上で、日本史上における皇室の歴史にも目配りしていく必要があるだろう。

日本史上の王権概念

本書のタイトルは『日本古代王権と貴族社会』である。王権というのは学術用語であるが、近年の日本古代史分野では市民権を得ているホットなワードといってよい。「序章」をあわせてお読みいただきたいが、日本古代史分野における王権とは、天皇だけでなく、太上天皇・皇后・皇太后・皇太子など、天皇を支える権力体の総称である⁽¹⁾。しかし、市民権を得ているとはいっても、その概念設定に対して懐疑的な見方もある。以下で一部紹介しよう。まず、古代史研究者の大津透氏の見解を部分的に掲げる⁽²⁾。

最近日本史に関する書物の題に「王権」という語をしばしば眼にする。ほとんど定義もなく何となく使われている感もあるが、とても使いやすい言葉なのはたしかである。たとえば、筆者は古代史を勉強しているので「王権」といわずとも「天皇制」でいいと思うが、中世や近世では「天皇制」では落ちつかず、権力の実質を失った天皇だけでなく権力をもつ幕府も視野にいれて「王権」という語でとらえられるのだろうか。(中略) 古代史の論文を読んでいると、「近年の王権論の進展をうけて」などの文章をよく眼にするのだが、本当のことをいうと「王権論」「王権論の展開」とは何を意味しているのかよくわからない。(中略) 単に権力・権威の分有論であるようにもみえる。天皇制の具体的なあり方の分析ということでは有益であるにしても、何故王権という語を使わなければならないのかと思うこともある。

大津氏の見解は、天皇制を分析する指標として王権論は有効ではあるものの、王権という用語を取りたてて使う必要はないのではないか、という点に集約される。次に、中世史研究者である河内祥輔氏の見解を紹介する⁽³⁾。河内氏は「私は「王権」の語を使ったことがなく、今後も使おうとは思わない」とした上で、以下のように述べる。

私が「王権」の語を使わない理由は、「王権」の語の意味するところが不明瞭であること、そして、他に用い

るべき言葉があると考えられることによる。(中略)問題は「王権」の対象が天皇以外に拡散していることにある。(中略)私は国王と呼びうる存在は天皇であると単純に思っているので、将軍や摂関を国王とみなすかのような議論には違和感を覚えるのである。

大変痛烈な批判である。確かに、王権の用語が無制限に拡大している感は否めない。例えば、以前は「ヤマト政権」と称されていた、いわゆる倭の五王の時代における国制も、近年では「ヤマト王権」という呼称に変化しているような印象がある。一般に奈良時代は「律令国家」と呼ばれてきたが、近年「律令国家」という呼び方が適切なかどうかという点にも疑義が生じてきている⁽⁴⁾。そうした傾向も影響しているのだろうか、王権という呼称が何ら疑問を差し挟む余地もなく、無制限に使用されているように思えるのである。

ともあれ、中世史・近世史で王権概念を使用するにあたって、一つ問題になるのが、河内氏も明快に指摘しているように、武家政権をどのように位置づけるのか、ではないだろうか。武家政権を王権ととらえる論者には、古代史研究者の荒木敏夫氏⁽⁵⁾や中世史研究者の五味文彦氏⁽⁶⁾がいる。荒木氏は、江戸時代の儒学者・頼山陽が著した『日本外史』巻一・源氏前記、平氏の「外史氏曰く、王権の武門に移るは、平氏に始り、源氏に成れり。而してこれを基する者は藤原氏なり」という記述が「国王の権力・君権」とも、「時代を支配する者・集団の権力」とも理解できるとし、王権の用語は天皇の権力のみ限定する必要はなく、武家政権にも適用可能であると説く。

五味氏は東国国家論という立場から王権概念使用を支持しており、平泉の奥州藤原氏も王権(辺境王)とする。武家政権というと、鎌倉幕府・室町幕府・江戸幕府を真っ先に想起すると思われるが、この幕府についても、六波羅幕府⁽⁷⁾・福原幕府⁽⁸⁾・奥州幕府構想⁽⁹⁾・安土幕府⁽¹⁰⁾といった形で、乱立の様相を呈している。さらに、山本博文氏⁽¹¹⁾は慶長年間の政治体制を天皇王朝・徳川王朝・豊臣王朝という形で理解している。

鎌倉幕府をどのように考えるか

以上のような中・近世の王権概念をどのように整理すべきか。大変難しい問題であるが、鎌倉幕府がそれ自身「王権」としての独自の成り立ちを持っていたのか、という点で王権概念の有効性を探る方法論は、今一度考えてみるべきであろう。新田一郎氏は、独自の世界を構築していたわけではない鎌倉將軍を独自の「王権」の担い手とすることは適切ではなく、共通の世界像を背景とし、その内部で分節される方向をとったとみるべき、とする。ここで登場する「分節」という表現は、権門体制論に依拠したものと思われる。

ここで権門体制論と先に登場した東国国家論について、簡単に説明しておきたい。⁽¹³⁾ 権門体制論は中世史研究者である黒田俊雄氏が提唱した概念で、天皇・院・摂関を中心とする公家政権、幕府（武家政権）、寺社勢力が中世の国家機能を分掌しつつ、相互補完的に国家支配を行っていたというものであった。すなわち、一つの国家の中に複数の権力体が存在するという点で、日本古代史分野の王権概念に近い考え方といえる。

東国国家論はこれも中世史研究者である佐藤進一氏が提唱した概念で、鎌倉幕府を朝廷から独立した別個の国家とみなすものである。⁽¹⁴⁾ それを発展的に継承したのが五味氏で、「二つの王権」という理解を示している。⁽¹⁵⁾

要するに、西国に位置する天皇や院を中心とする朝廷、東国に拠点を構える武家政権を一つの国家の枠組みで理解するか、それとも二つの国家としてとらえるか、という問題意識の対立がみられるのである。先に新田氏の鎌倉幕府への理解を権門体制論に依拠したものという解釈を示したが、東国国家論の枠組みで理解する事例としては、鎌倉武士が鎌倉に居住することについて、「首都」としての鎌倉」と評した、谷口雄太氏の表現を紹介しておこう。⁽¹⁶⁾ また、谷口氏は江戸幕府についても、参勤交代と江戸の関係を挙げて説明しており、大石学氏も朝鮮通信使が江戸

に到来することから、江戸を首都であると述べている。

ここには権力を喪失しながら権威をまとい続けた天皇と、それに対峙する武家政権との関係をどのように理解するかという、大きな問題が横たわっている。一方、鎌倉時代における後鳥羽上皇と源実朝の親密な関係を指摘する意見⁽²⁰⁾もあり、公武関係をどのように解釈するかが重要であると思われる。

王権の一角としての室町幕府

織豊期の王権概念について、堀新氏⁽²¹⁾は〈日本国王〉織田信長、〈中華皇帝〉豊臣秀吉という視点を示し、武家勢力・公家勢力の補完としての公武結合王権論を提唱している。一方、近年織田信長に関する一連の論考を一書にまとめて上梓された久野雅司氏⁽²²⁾は、「織田信長政権」としている。確かに信長は朝廷対策を行っているが、「王権」ではないと思われ、中世の朝廷と武家政権の関係をどのように読み解くかが問題となる。

その上で、私は足利義満⁽²³⁾ら、室町幕府の一部の将軍は「王権」に含めることが可能であると考えている。三代将軍・足利義満については、今谷明氏⁽²⁴⁾が指摘した「王権篡奪計画」が著名である。その概要をまとめると、義満は天皇の権限を吸収し、極小化することで天皇家を追い詰めたというものであり、後円融天皇の廃人化、人事権の掌握（公家の人事は義満と摂関二条良基により決定）、天皇祭祀権の否定（北山第の祈禱が朝廷より大規模）、改元権も義満が掌握、皇位継承決定権も義満の手に帰す、義満の上皇待遇（法会、書札札など）、義嗣（義満庶子）の次期天皇待遇（驚異的速度の官位昇進、元服前の天盃、内裏での元服）といった点などが論拠に挙げられている。

今谷説は状況証拠に立脚したに過ぎないが、全否定するには決定打に欠く。以後、今谷説は、義満が国家の権能を吸収し、王権が治天から室町殿へ移ったとする富田正弘氏⁽²⁴⁾、義満は王権の奪取ではなく、天下成敗権の次元にお

ける公武統合を指向していたとする川岡勉⁽²⁶⁾、公家社会秩序に身を置く足利直義のあり方に近いとする石原比伊呂氏⁽²⁶⁾らによって、批判的に継承されていく。

いずれにしても、義満の「上皇化」という理解は正しいと思われる、義満は天皇・院とならぶ「北山殿」となった。従来このことが「王権篡奪計画」の論拠とされたわけである。これは抽象的な印象論ではなく、義満の意を奉じる伝奏奉書の出現も無視できない。なぜなら、これは本来天皇・院が用いるべきものであり、後円融上皇死去が契機となつているからである。以上から、石原氏は後小松天皇を後見するための方法論として、義満の「院政」が創出されたとする⁽²⁷⁾。

義満は天皇でもないのに、なぜそのような行為が可能だったのか、という疑問も浮かんでくるかもしれないが、実は皇位についたことのない人物が「院政」を行っていた先例がある。南北朝時代の広義門院である。

広義門院（西園寺寧子）は後伏見上皇女御で、北朝の光厳・光明天皇の母、後光厳天皇の祖母にあたる。正平七年（一三五二、北朝・文和元年）閏二月、南朝が京都を占拠したが、三月に北朝が京都を回復した。しかし、光厳院・光明院・崇光院・廢太子直仁親王が南朝へ連行されてしまい、六月になつて後光厳天皇（崇光院同母弟）が即位する。この時、継体天皇即位の先例が持ち出されたこと（『左大史臣遠宿禰記』七月七日条、『園太暦』七月二日条）も興味深いが、広義門院の「院政」が実施されることになる。

「三宮御登壇并女院御政務事令」^三執申^二云々^一（『左大史臣遠宿禰記』文和元年六月三日条）といった記述を起点として、同年六月二十五日条には、以下のようにある。

今日勸修寺前大納言參^二殿下^一。御当職如^レ元不^レ可^レ有^二相違^一事、并天下政務内々可^二御計^一之由申^三入^二之^一。且女院御使、且武家令^二執申^一之趣云々。就^レ之踐祚事、又急速可^レ有^二御沙汰^一云々。

『大日本史料』第六編第十六冊五九七頁・網文に「広義門院、二条良基ヲシテ関白故ノ如ク、権ニ天下ノ政務ヲ執ラシメ給フ」とあるように、まさしく広義門院の「院政」が始まったのである。承久の乱後、後高倉院を「治天の君」としたことで後堀河天皇の即位が可能になったが、広義門院は二人目の皇位についたことのない「治天の君」であり、当該期は広義門院の「院政」に他ならない。⁽²⁸⁾岡野友彦氏⁽²⁹⁾が述べているように、皇位についたことのない広義門院の「院政」は、義満の「上皇化」をうながしたといえよう。

一方、義満の子である四代將軍義持は少し異なる立場であった。義持は大嘗会節会内弁を拒否しているが、摂関は基本的に内弁を勤めないという先例が重要である。ここから石原氏は、義持が足利將軍家を摂関家に准じる地位へと格上げしたとする。⁽³⁰⁾加えて、石原氏は、後小松上皇の院執事に就任した義持のあり方から、天皇家を支える地位を見いだしている。⁽³¹⁾また、北朝の皇位継承は室町幕府が最終決定していることから、天皇との血縁関係や摂関・征夷大將軍のような固有の地位に依拠せず、天皇の補佐役である室町殿として存在したという佐伯智広氏⁽³²⁾のような理解もある。

すなわち、武家政権という性格よりも、家格としての「北山殿」「室町殿」に重きを置く見解とまとめることができる。⁽³³⁾本書序章で示したように、私は摂関を王権の一角とみなすが、ここまで紹介した所説によれば、室町幕府は王権の一角（補佐役）ということになる。

鎌倉時代の公武関係史

鎌倉時代の起点はいつだろうか。かつては征夷大將軍に任命された建久三年（一一九二）が有力だったが、その後守護・地頭を設置した文治元年（一一八五）という説が出され、今日では多くの説が乱立し、定見を得ていない。

この一見たいした問題ではないように映る鎌倉幕府の成立年代については、東国国家論の理解にも関わるので、大変重要である。

鎌倉幕府を開いた源頼朝は女の大姫入内を画策していたが、佐藤進一氏⁽³⁴⁾によれば、大姫が産んだ後鳥羽天皇の皇子を將軍に推戴し、頼朝、あるいは嫡子の頼家が武家の棟梁（「鎌倉殿」）として補佐する構想があったとされている。このことの意義について、坂井孝一氏は、史上初の武家政権を公家政権の王権によって權威化する意図があったという。

三代將軍・実朝と後鳥羽との近い関係についても、坂井氏によって指摘されている。例えば、実朝の名付けは後鳥羽であり（『猪熊閨白記』建仁三年（一二〇三）九月七日条）、閑院内裏造宮への協力、右大臣任官など、多くの事例がある。実朝は頼朝と同じく王権を意識した。後鳥羽の皇子を推戴した上での「幕府内院政」を志向し、後鳥羽も東国をコントロールできることから快諾したという。⁽³⁶⁾

しかし、実朝暗殺という重大事件により、後鳥羽は北条義時追討を命じた。承久の乱である。この乱で幕府側は圧勝し、以後の皇位継承決定権は鎌倉幕府が掌握することになった。⁽³⁷⁾ただし、院と皇位継承を調整する室町幕府とは異なり、鎌倉幕府は裁定する姿勢といえるのではないだろうか。これは江戸幕府も同様と思われる。

武家政権とは

王権概念を踏まえた上での武家政権の特質とは何だろうか。鎌倉幕府は源氏一門での継承を志向せず、実朝までは王権への接近を企図していた。その後、將軍・得宗の二頭政治が出現するが、得宗は將軍権力篡奪を志向していない。⁽³⁸⁾

室町幕府は貴族化（上皇化・准摂関化）し、皇位継承を調整する王権の一角へと変貌したが、江戸幕府はそれと一線を画す立場となった。禁中並公家諸法度を持ち出すまでもなく、江戸幕府は朝廷を統制したのである。⁽³⁹⁾ また、首都＝江戸という現象も生じるが、王権とはみなしがたい。

山本氏が提示した天皇・江戸幕府・豊臣家という複数の王朝が並立する枠組み⁽⁴⁰⁾にも疑問符がつく。藤田覚氏が直截に述べているように、誰が王かより、公武関係を近世を通じての変化として究明する方が重要なのではないだろうか。以上のように、中・近世の武家政権は王権との公武関係をもとに読み解く方がよい。これが私の理解である。

本書刊行の意義

ここまで長々と中・近世の王権概念を武家政権に援用することの是非をなるべく平易な形で述べてきた。本書は日本古代史、とりわけ八・九世紀における王権の実態、王権と貴族社会の相互補完的關係を実証的に考察したものであるが、古代国家の権力中枢のあり方が明らかになった一書であると考えている。

本書のゴールは摂関政治の成立であるが、このような政治形態は平安時代を通して採用された国制であるとともに、「自今摂関幕府等廢絶」と宣言した王政復古の大号令まで存続し続ける⁽⁴²⁾。また、本書で取り上げる太上天皇や皇后・皇太后も前近代史を通してみられる身分であり、近代になっても太上天皇以外はその内実を変えながらも残存する⁽⁴³⁾。

さらに、本書では日本古代の王権構造の有り様が東アジアにおいてどのように位置づけられるかという、比較史の観点も重視しており、太上天皇の日中比較は先行研究の成果に譲り⁽⁴⁴⁾、皇后・皇太后の比較に取り組んだ。中国史専門の碩学の方々からは甚だ見取り図のようにしかみえない不十分な成果であろうが、私見をあえて示すことで、

議論の一助となればと思っている。

本書ではほんの一部ではあるが、コラムにおいて隣接諸分野における王権に関わる事例を取り上げて、読者の理解の助けとなるように努めた。これは自身の研究成果を古代史以外の分野を専門とする方々、あるいは一般の読者にも手にとってもらいたいという、強い思いからである。また、「あとがき」で触れるように、私事ながら二〇二二年四月より大学の教壇で日本史を教えているということもあり、自身の研究をいかに日本史の通史や東アジア史に位置づけるかという重要性も痛感している。

このような問題意識を示した上で、早速古代国家の権力中枢を「解剖」していくことにしよう。

註

- (1) 荒木敏夫「王権とはなにか」(『日本古代の王権』敬文舎、二〇一三年)。
- (2) 大津透「王権論のための覚え書き」(同編『王権を考える』山川出版社、二〇〇六年)。
- (3) 河内祥輔「中世の国家と政治体制」(2) 前掲書。
- (4) 吉田一彦「民衆の古代史」(風媒社、二〇〇六年)、同「古代国家論の展望」(『歴史評論』六九三、二〇〇八年)。
- (5) 荒木(1) 前掲論文。
- (6) 五味文彦「東国の王権」(2) 前掲書。
- (7) 高橋昌明「平家と六波羅幕府」(東京大学出版会、二〇一三年)。
- (8) 本郷和人「謎とき平清盛」(文春新書、二〇一一年)。
- (9) 入間田宣夫「藤原秀衡の奥州幕府構想」(上横手雅敬編『源義経 流浪の勇者』文英堂、二〇〇四年)、同『藤原秀衡』(ミネルヴァ書房、二〇一六年)。
- (10) 藤田達生『信長革命』(角川書店、二〇一〇年)。なお、同「『頼幕府』論」(『芸備地方史研究』二六八・二六九、

- 二〇一〇年）は、足利義昭の京都追放後も亡命政権たる「頼幕府」の存在を認め、天正四年（一五七六）～同八年（一五八〇）の間は、「頼幕府」と織田政権の並立期とみるべきであるとする。以上のような乱立した幕府概念を近年再検討したものととして、東島誠「幕府」論のための基礎概念序説（『立命館文学』六六〇、二〇一九年）がある。
- (11) 山本博文「統一政権の登場と江戸幕府の成立」（歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座5 近世の形成』東京大学出版会、二〇〇四年）。
- (12) 新田一郎「中世における権威と権力」（2）前掲書。
- (13) 谷口雄太『分裂と統合で読む日本中世史』（山川出版社、二〇二二年）が平易にまとめているので、参照されたい。
- (14) 黒田俊雄「中世の国家と天皇」（同著作集1『権門体制論』法蔵館、一九九四年、初出一九六三年）。
- (15) 佐藤進一『日本の中世国家』（岩波文庫、二〇二〇年、初出一九八三年）。
- (16) 五味文彦編『日本の時代史8 京・鎌倉の王権』（吉川弘文館、二〇〇三年）、同（6）前掲論文、同『王の記憶』（新人物往来社、二〇〇七年）。
- (17) 谷口（13）前掲書、一八三頁。
- (18) 谷口（13）前掲書、一九〇頁。
- (19) 大石学『首都江戸の誕生』（角川書店、二〇〇二年）。
- (20) 坂井孝一『承久の乱』（中公新書、二〇一八年）。
- (21) 堀新「織豊期王権論」「織豊期王権論をめぐって」（『織豊期王権論再論』（『織豊期王権論』校倉書房、二〇一一年、初出はそれぞれ二〇〇〇年、二〇〇四年、二〇〇六年）。
- (22) 久野雅司『織田信長政権の権力構造』（戎光祥出版、二〇一九年）。柴裕之『織田信長』（平凡社、二〇二〇年）一五一～一五二頁は、將軍足利義昭追放後に信長が天下人として君臨するが、「織田権力」の語を使用すると断っている。これは「政権」の概念が中央権力と統一権力と区別せずに使用され、政権化⇨統一権力に展開する様子を充分に押さえられていないことによるという。

- (23) 今谷明『室町の王権』（中公新書、一九九〇年）。
- (24) 富田正弘「室町殿と天皇」（久留島典子・榎原雅治編『展望日本歴史Ⅺ 室町の社会』東京堂出版、二〇〇六年、初出一九八九年）。
- (25) 川岡勉「中世日本の王権と天下成敗権」（『愛媛大学教育学部紀要』五六、二〇〇九年）。
- (26) 石原比伊呂『足利將軍と室町幕府』（戎光祥出版、二〇一八年）三九〜四〇頁。その他、近年義満に関する成果が多く出されているが、小川剛生『足利義満』（中公新書、二〇一二年）、桃崎有一郎『室町の覇者 足利義満』（ちくま新書、二〇二〇年）を挙げるにとどめる。
- (27) 石原（26）前掲書、六〇〜六三頁。
- (28) 今谷明「観応三年広義門院の「政務」について」（『室町時代政治史論』塙書房、二〇〇〇年、初出一九九七年）、岡野友彦『院政とは何だったか』（PHP新書、二〇一三年）一八三頁。
- (29) 岡野（28）前掲書、一八五頁。
- (30) 石原（26）前掲書、七四頁。樋口健太郎『撰関家中世』（吉川弘文館、二〇二二年）二〇七頁も同様の見解である。
- (31) 石原（26）前掲書、八三頁。
- (32) 佐伯智広『皇位継承の中世史』（吉川弘文館、二〇一九年）一八四〜一八六頁。
- (33) 一方、桃崎有一郎「中世後期身分秩序における天皇と上皇・室町殿」（『中世京都の空間構造と礼節体系』思文閣出版、二〇一〇年、初出二〇〇八年）は、身分尺度としての「陣中」を分析し、室町殿は天皇未満の位置づけで、外護者であったと位置づけている。なお、「室町殿」についての概説書として、久水俊和編『室町殿』の時代安定期室町幕府研究の最前線（山川出版社、二〇二二年）があるので、参照されたい。
- (34) 佐藤（15）一二三〜一二四頁。
- (35) 坂井（20）前掲書、四二頁。
- (36) 上横手雅敬「承久の乱」（『岩波講座日本歴史』第五卷中世一、岩波書店、一九六二年）、河内祥輔「朝廷・幕府

- 体制の諸相」〔日本中世の朝廷・幕府体制〕吉川弘文館、二〇〇七年、初出一九九一年、坂井（20）前掲書、九五～九八頁。
- （37） 佐伯（32）前掲書、一〇五～一二二頁。なお、高橋典幸「鎌倉幕府と朝幕関係」〔日本史研究〕六九五、二〇二〇年）は、鎌倉時代の公武関係について最新の成果を踏まえつつ、極めて明快な論旨を展開している。是非一読されたい。
- （38） 桃崎有一郎「北条氏権力の専制化と鎌倉幕府儀礼体系の再構築」〔学習院史学〕五五、二〇一七年）。
- （39） 江戸時代の朝幕関係については、高埜利彦『江戸幕府と朝廷』（山川出版社、二〇〇一年）に詳しい。
- （40） 山本（11）前掲論文。
- （41） 藤田覚「近世王権論と天皇」（2）前掲書。なお、織田信長の権力についても、柴（22）前掲書、二〇一頁は、日本国内が一元化されるのではなく、畿内近国を中心とした「天下」（織田権力）と、「地域」国家（各地の諸大名）で構成された重層的複合的国家とみており、古代国家のような単純な国制を想定することは難しい。
- （42） 撰閲家のあり方を豊臣秀吉までまとめた有益な一般書として、樋口（30）前掲書がある。
- （43） 旧皇室典範第十条に「天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク」とあるように、ここには生前讓位の規定がなく、太上天皇そのものが否定されたことになる。これは今日の皇室典範にも継承されているが、令和の即位では特例の生前退位が行われた。近年の関連する論考としては、仁藤敦史「『万世一系』論と女帝・皇太子」〔歴史学研究〕一〇〇四、二〇二一年）がある。
- （44） 春名宏昭「太上天皇制の成立」〔史学雑誌〕九九―二、一九九〇年）、会田大輔『南北朝時代』（中公新書、二〇二一年）。

『日本古代王権と貴族社会』 目次

まえがき..... i

序章 日本古代王権構造の研究動向と課題..... 1

 一節 王権研究の成果と課題..... 1

 二節 律令貴族論の成果と課題..... 8

 三節 本書の方向性および課題..... 11

第一部 八世紀の王権構造とその周辺

第一章 八世紀太上天皇制の諸相..... 33

 はじめに..... 33

 一節 元正太上天皇による聖武天皇の後見..... 34

 二節 元正太上天皇前後の太上天皇制..... 44

 ― 王権を支える持続・聖武太上天皇 ―..... 44

 三節 太上天皇制の相克..... 50

 ― 光明皇太后・孝謙太上天皇・藤原仲麻呂の権力と行方 ―..... 50

おわりに	59
第二章 八世紀の皇后・皇太后	73
はじめに	73
第一節 立后宣命におけるしりへの政	75
第二節 漢代皇后の儒教的観念と古代日本	83
第三節 八世紀の皇太后 —太上天皇に准じた光明子—	94
おわりに	104
〔コラム〕飛鳥時代の王権	114
第三章 大伴古麻呂と「選ばれた四位官人」	117
はじめに	117
第一節 大伴古麻呂の政治的位置づけ	119
第二節 「選ばれた四位官人」の実相	134

第三節	大伴古麻呂と橘奈良麻呂の変	148
おわりに	157
第四章 藤原永手と内臣		
はじめに	169
第一節	『類聚三代格』にみえる「内臣宣」	170
第二節	藤原永手の政治的動向	179
第三節	永手の内臣任命とその挫折	183
おわりに	190
第五章 藤原仲麻呂と光明子		
はじめに	199
第一節	橘奈良麻呂の変をめぐる相克	200
第二節	光明皇太后の構想	204
第三節	藤原仲麻呂との関係修復	214
おわりに	218

〔コラム〕東アジアの王権比較	223
第二部 平安期王権構造への転回 — 八世紀後半から九世紀に向けて —	
第一章 称徳王権論	227
はじめに	227
第一節 称徳王権の史的前提	228
第二節 称徳王権と道鏡	233
第三節 称徳王権と官人	242
おわりに	258
第二章 奈良時代の王権と内臣	269
はじめに	269
第一節 内臣鎌足・房前の動向	272

第二節	内臣藤原永手の登場	288
第三節	内臣良繼・魚名の動向	294
第四節	内臣と知太政官事・紫微内相	307
おわりに		313

〔コラム〕	日本中世・近世の王権概念	325
-------	--------------	-----

第三章	桓武天皇の王権構想と平安初期の議政官	327
-----	--------------------	-----

はじめに		327
第一節	平安期王権の胎動	329
第二節	光仁・桓武天皇の側近層	338
第三節	桓武天皇の太政官側近化とその後	348
第四節	公卿成立史と摂関政治の史的前提	356
おわりに		362

第四章	平安前期太上天皇制とその行方	371
はじめに	371
第一節	九世紀の太上天皇	372
第二節	宇多太上天皇の醍醐天皇後見と挫折	380
第三節	宇多太上天皇の再登場	387
第四節	平安期太上天皇と宇多	398
おわりに	403
第五章	皇后・皇太后の変質と母後の登場	413
——九世紀を中心に——	413
はじめに	413
第一節	橘嘉智子・正子内親王と九世紀の王権	414
第二節	母后と氏后	425
おわりに	439
〔コラム〕	近現代における皇室	451

終章 八・九世紀王権構造の変質過程と政治史の展開……………453

第一節 まとめ……………453

第二節 課題と展望……………461

あとがき……………485

索引……………1

事項……………1

歴史人名……………6

研究者名……………14

史料刊本一覽 ※割注は（ ）で表した。傍線は筆者による。

『日本書紀』…日本古典文学大系（岩波書店）／『続日本紀』…新日本古典文学大系（岩波書店）／『日本後紀』…訳注日本史料（集英社）／『続日本後紀』…新訂増補国史大系（吉川弘文館）／『日本文徳天皇実録』…新訂増補国史大系（吉川弘文館）／『日本三代実録』…新訂増補国史大系（吉川弘文館）／『類聚国史』…新訂増補国史大系（吉川弘文館）※『日本後紀』逸文の場合、訳注日本史料『日本後紀』（集英社）も参照／『日本紀略』…新訂増補国史大系（吉川弘文館）※『日本後紀』逸文の場合、訳注日本史料『日本後紀』（集英社）も参照／『公卿補任』…新訂増補国史大系（吉川弘文館）／『扶桑略記』…新訂増補国史大系（吉川弘文館）

『万葉集』…新日本古典文学大系（岩波書店）／律令…日本思想大系（岩波書店）／『令義解』『令集解』…新訂増補国史大系（吉川弘文館）／『類聚三代格』…新訂増補国史大系（吉川弘文館）／『延喜式』…訳注日本史料（集英社）／『別聚符宣抄』…新訂増補国史大系（吉川弘文館）／『政事要略』…新訂増補国史大系（吉川弘文館）／『年中行事抄』…『続群書類従』／『年中行事秘抄』…『群書類従』／『東大寺要録』…筒井英俊編『東大寺要録』（国書刊行会）／『日本靈異記』…日本古典文学全集（小学館）／『日本高僧伝要文抄』…蔵中しのぶ『延暦僧録』注釈（大東文化大学東洋研究所、二〇〇八年）の該当部分、新訂増補国史大系（吉川弘文館）／『懷風藻』…日本古典文学大系（岩波書店）／『本朝文粹』…新訂増補国史大系（吉川弘文館）／『菅家文章』…日本古典文学大系（菅家後集）（岩波書店）／『唐大和上東征伝』…『群書類従』／『藤氏家伝』…沖森卓也・佐藤信・矢嶋泉・藤氏家伝 鎌足・貞慧・武智麻呂伝注釈と研究（吉川弘文館、一九九九年）／『興福寺流記』…『大日本仏教全書』興福寺叢書一／『性靈集』…日本古典文学大系（岩波書店）

『礼記』…新釈漢文大系（明治書院）／『周礼』…中華書局／『漢書』…中華書局／『史記』…中華書局／『後漢書』…中華書局

／『三国志』…中華書局／『宋書』…中華書局／『北史』…中華書局／『南史』…中華書局／『隋書』…中華書局。 ※池田雅典ほか訳『中国史書入門 現代語訳 隋書』（勉誠出版、二〇一七年）も参照／『旧唐書』…中華書局／『新唐書』…中華書局／『唐六典』…中華書局／『三国史記』…完訳三国史記（六興出版）／『魏書』…中華書局／『宋史』…中華書局

『醍醐天皇御記』…所功編『三代御記逸文集成』（国書刊行会）／『吏部王記』…史料纂集（統群書類従完成会）／『貞信公記抄』…大日本古記録（岩波書店）／『九曆』…大日本古記録（岩波書店）／『小右記』…大日本古記録（岩波書店）／『権記』…史料纂集（統群書類従完成会）／『左経記』…増補史料大成（臨川書店）／『春記』…増補史料大成（臨川書店）／『行親記』…大日本古記録『平記 上』（岩波書店）／『中右記』…大日本古記録（岩波書店）、増補史料大成（臨川書店）／『殿曆』…大日本古記録（岩波書店）／『兵範記』…増補史料大成（臨川書店）／『玉葉』…国書刊行会／『儀式』…故実叢書（明治書院）／『西宮記』…故実叢書（明治書院）／『北山抄』…故実叢書（明治書院）／『外記補任』…統群書類従完成会

正倉院文書…『大日本古文書』／如意輪陀羅尼經奥書…『石山寺古経聚英』（法蔵館）／五月一日経願文…上代文献を読む会編『上代写経識語注釈』（勉誠出版）／『平安遺文』…竹内理三編『平安遺文』（東京堂出版）／『維摩経文疏』…『大日本統蔵経』／『叡山大師伝』…『統群書類従』／『東宝記』…『続々群書類従』／『梅松論』…『群書類従』／『一代要記』…統神道大系朝儀祭祀編／『寛平御遺誠』…日本思想大系『古代政治社会思想』（岩波書店）／『元亨釈書』…新訂増補国史大系（吉川弘文館）／『拾遺往生伝』…『統群書類従』／『大神宮諸雜事記』…『大日本史料』／『東大寺別当次第』…『群書類従』／『北野天神御伝』…『大日本史料』／『金峰山神社文書』…『大日本史料』／『竹生島縁起』…『群書類従』／『神護寺略記』…『校刊美術史料』（中央公論美術出版）／『天台座主記』…『統群書類従』／『唐決集』…大日本仏教全書『天台霞標』／『恒貞親王伝』…『統群書類従』

初出一覧

序章 日本古代王権構造の研究動向と課題（新稿）

第一部 八世紀の王権構造とその周辺

第一章 八世紀太上天皇制の諸相（新稿）

第二章 八世紀の皇后・皇太后

「しりへの政と皇后―八・九世紀を中心に―」（『日本歴史』第八四四号、二〇一八年）を分割の上、加筆修正。

〔コラム〕 飛鳥時代の王権（新稿）

第三章 大伴古麻呂と「選ばれた四位官人」

「大伴古麻呂と奈良時代政治史の展開」（『古代文化』第六七卷第二号、二〇一五年）を加筆修正。

第四章 藤原永手と内臣

「奈良時代の内臣と藤原永手」（『古代文化』第七〇卷第三号、二〇一八年）を加筆修正。

第五章 藤原仲麻呂と光明子

「光明子と仲麻呂」（『史聚』第五二号、二〇一九年）を加筆修正。

〔コラム〕 東アジアの王権比較（新稿）

第二部 平安期王権構造への転回―八世紀後半から九世紀に向けて―

第一章 称徳王権論（新稿）

※早稲田古代史研究会（二〇一九年七月二十日、於早稲田大学戸山キャンパス）にて「称徳・桓武王権論―皇位継承と官人編成からみた権力構造―」という題目で概要を口頭発表。その後得た知見を加筆。

第二章 奈良時代の王権と内臣（新稿）

〔コラム〕 日本中世・近世の王権概念（新稿）

第三章 桓武天皇の王権構想と平安初期の議政官（新稿）

※早稲田古代史研究会（二〇一九年七月二十日、於早稲田大学戸山キャンパス）にて「称徳・桓武王権論―皇位継承と官人編成からみた権力構造―」という題目で概要を口頭発表。その後得た知見を加筆。

第四章 平安前期太上天皇制とその行方（新稿）

第五章 皇后・皇太后の変質と母后の登場―九世紀を中心に―

「しりへの政と皇后―八・九世紀を中心に―」（『日本歴史』第八四四号、二〇一八年）を分割の上、加筆修正。

〔コラム〕 近現代における皇室（新稿）

終章 八・九世紀王権構造の変質過程と政治史の展開（新稿）

【著 者】

上村 正裕（うえむら まさひろ）

1987年 茨城県生まれ

2012年 東洋大学文学部卒業

2021年 東洋大学大学院博士後期課程修了

現在 東洋大学文学部・フェリス女学院大学文学部・武蔵大学人文学部非常勤講師・京都芸術大学通信教育部業務担当非常勤講師

〔主な論文〕

「田植御覧の成立と展開」（『人民の歴史学』234、2022年）

「伴善男の伴氏再編計画」（『続日本紀研究』427、2022年）

「葬司の基礎的考察 一律令官人の一断面―」（『白山史学』56、2020年）

「八・九世紀遣使攷」（『続日本紀研究』416、2019年）

「平安時代の興福寺維摩会と藤原氏」（『国史学』223、2017年）

にほんこ だいおうけん きぞくしゃかい
日本古代王権と貴族社会

2023年1月25日 初版第一刷発行

定価（本体9,000円＋税）

著 者 上 村 正 裕
発行所 株式会社 八 木 書 店 出 版 部
代表 八 木 乾 二
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8
電話 03-3291-2969(編集) -6300(FAX)
発売元 株式会社 八 木 書 店
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8
電話 03-3291-2961(営業) -6300(FAX)
<https://catalogue.books-yagi.co.jp/>
E-mail pub@books-yagi.co.jp

ISBN978-4-8406-2259-2

印 刷 上毛印刷
製 本 牧製本印刷
用 紙 中性紙使用

©2023 UEMURA MASAHIRO

索引

事項

【あ】

遺詔 49, 97, 105, 206, 207, 231, 277,
278, 358, 395-397, 404, 454, 457, 471
乙巳の変 33, 114, 115, 192, 269, 273,
275, 288
院司 60, 69, 71, 388, 412, 466, 476,
477, 480
院政 vi-viii, 60, 61, 69, 70, 325, 476,
477
陰陽二元論 81, 83-85, 87, 88, 91, 94,
103, 104, 440, 454
宇佐八幡宮神託事件 236-238, 240-
242, 257, 258, 263
宇多院政 19, 372, 459
選ばれた四位官人 16, 105, 119, 129,
130, 132, 133, 138, 141, 145, 157, 158,
180, 209, 261, 342, 357, 359, 360,
455, 457, 459
王権研究 (王権論) ii, v, 1-3, 11-13, 313,
403, 404, 465, 472, 475, 479
王権の権威者 38, 39, 47-50, 59, 81,
145, 377, 379, 384, 389, 392, 396, 397,
400, 403, 404, 406, 424, 459, 461,
472
大后 5, 6, 73-75, 104, 114, 277, 419
(大伴) 吹負系 164
(大伴) 馬来田系 132, 164

(大伴) 御行系 121, 160, 164
(大伴) 安麻呂系 121-123, 132, 133,
153-157, 164

大原野祭 427, 435, 437-439

蔭位制 8, 10

【か】

外交権 1, 51, 390-392, 396, 419, 420,
423, 424, 428

家産 24, 154, 167, 179, 187, 190, 193,

195, 209, 247, 248, 250, 252, 253,

257, 259, 261, 282-284, 287, 288, 291,

293, 301, 303-306, 310, 313-316, 328,

341-343

春日祭 436

唐物 389, 392, 396, 475

官司先買権 240

諫臣 276, 351-353, 363

官人制 10, 134, 158, 350

関東行幸 15, 39, 40, 59, 145, 199, 453,
454

関白 14, 58, 68, 382, 432, 473, 475

機関化 11, 12, 27, 361, 363, 470

キサキ決定権 380, 381, 385, 386

議政官 8-10, 16, 17, 42, 58, 93, 122,

126-129, 132, 133, 137, 139, 140, 144,

157, 163-165, 180-182, 186, 191, 193,

196, 213, 230, 233, 239, 241-244, 247,

252-254, 256-259, 269, 279, 287,
293-295, 297-299, 301, 303, 305, 307,
323, 328, 341, 346-348, 350-352, 356,
357, 359, 360, 362, 455, 457, 461, 467,
472
畿内政權論 1, 8, 12, 139
共同統治 5, 6, 45, 50, 67, 80, 218,
235-237, 242, 258, 262, 331, 414, 432,
457
近侍官 273, 276, 279, 281, 285-287,
298, 306, 310, 458
公卿 11, 17-20, 60, 139-141, 143, 144,
157, 160, 171, 245-247, 265, 271, 299,
305, 313, 315, 328, 335, 337, 353-356,
358, 360-363, 374, 383, 386, 422,
455, 457-461, 463, 466, 470-472, 476
——上表 336, 337, 369, 419, 445,
463, 476
草壁嫡系 205, 207, 231, 327, 338
薬子の変 4, 5, 18, 19, 42, 284, 333, 351,
360, 371-374, 403
恭仁宮 43, 64
蔵人所 5, 136, 247, 304, 315, 316, 343,
349, 371
計会 270, 279, 280, 282, 284, 287, 297
外記政 360, 361
遣唐使 45, 119, 122, 130, 132, 133, 155,
248, 352, 375, 406, 423, 436, 446
權門体制論 iv, 377, 406
權力核 130, 133, 152, 187, 190, 212,
259, 278, 314, 337, 460
後院 5, 371, 466, 477, 478
皇位繼承決定權 v, viii, 18, 55, 56, 241,
257-259, 313, 336, 337, 457, 458, 476
合議 8, 9, 12, 16, 17, 60, 95-97, 120,
123, 126, 132, 133, 139, 141, 144, 151,
157, 182, 223, 230-232, 237, 241, 245,

258, 274, 291, 311, 313, 331, 334, 335,
342, 359, 360, 419, 422, 455-458, 471,
472, 476
後宮統括權 7, 24, 77, 415, 417, 418, 426
後見 vi, 5, 7, 12, 33, 34, 38, 39, 43-45,
51, 56-60, 73, 77, 93-95, 100, 154, 184,
187, 191, 197, 213, 218, 232, 272, 278,
292, 294, 302, 314, 321, 324, 337,
360, 361, 371, 372, 377, 379, 384-386,
388, 395-397, 402, 403, 407, 410,
414, 426, 427, 431, 439, 440, 451, 454,
456, 459-461, 463, 469, 472, 476
皇后宮（皇后宮職） 6, 7, 20, 23, 24, 43,
64, 73, 74, 81, 92-94, 104, 209, 247,
282, 284, 303, 304, 309, 312, 313,
327, 413-415, 417, 425, 436, 439, 443,
454, 475
皇后執政權 16, 75, 312, 337, 418
皇親 129, 130, 152, 207, 220, 231, 240,
307
皇太子監国 7, 13, 102, 113
口頭伝達 5, 41, 99, 173, 174, 179, 193,
371, 375, 401
興福寺 195, 214, 278, 282, 283, 285,
287, 313, 391, 396, 398, 402, 435, 437
固関 4, 46, 118, 155, 168, 278, 462
坤宮官 6, 24, 108, 188, 247, 284, 303,
313
【さ】
斎宮（斎王） 6, 12, 92, 395
山陵 88, 376, 395, 467
紫香樂宮 39, 40, 42, 43, 63
紫微中台 6, 7, 24, 73, 75, 179, 187, 188,
191, 199, 209, 219, 247, 248, 284, 292,
303, 309, 313
紫微内相 16, 170-172, 187, 188, 198,

238, 271, 289, 290, 294, 310, 320, 350
 紫微令 12, 171, 172, 191, 199, 289, 290,
 307, 309-311, 320
 仕奉 (君臣関係) 10, 96, 99, 229, 310,
 350, 351, 355, 356, 363, 410, 459
 儒教的観念 16, 85, 90, 91, 104, 326,
 442, 444, 454
 讓位 i, xiii, 5, 16, 18, 33, 34, 45, 47, 59,
 60, 97, 114, 173, 206, 213, 218, 224,
 231, 245, 288, 294, 309, 321, 325,
 328, 330, 331, 334, 335, 360, 364,
 373, 377-380, 383-386, 403, 424,
 430, 431, 451, 459, 476
 称制 95, 275-277, 327
 上宣 17, 42, 173, 186, 190, 193, 244,
 247, 259, 291, 305, 328, 357, 360
 昌泰の変 386, 397, 403
 上東門院故実 449
 承和の変 139, 337, 338, 418, 419, 422,
 424, 427, 434, 460, 462, 463, 469
 女帝 5, 20, 53, 65, 73, 80, 89, 101, 107,
 112, 223, 224, 227, 241, 325, 329, 413,
 451
 しりへの政 7, 16, 74-77, 79, 80, 82,
 92-95, 104, 107, 191, 197, 219, 222,
 309, 312, 324, 337, 414, 415, 417, 418,
 435, 436, 454
 賑給 90, 326, 420, 421, 424, 428,
 440-442, 450
 親蚕儀礼 85, 87-91, 103, 104, 109
 陣定 470
 摂関 iii-v, vii, ix, 12, 13, 299, 307, 311,
 386, 394, 404, 434, 439, 451, 459,
 475, 476
 —家 vii, xiii, 160, 337, 391, 449,
 473, 475-477
 —政治 ix, 19, 20, 58, 329, 357,

361, 363, 372, 379, 402, 404, 430,
 440, 459, 460, 469
 摂政 5, 14, 58, 67, 377-379, 387, 396,
 397, 401-403, 429-432, 439, 440,
 448, 451, 459, 474, 475
 施薬院 81, 283, 414, 421, 438, 454
 宣命 7, 16, 20, 35, 47, 48, 52, 74-79, 81,
 82, 87, 91, 92, 95, 97, 103, 104, 107,
 108, 162, 206, 217, 231, 258, 265, 324,
 334, 377-379, 383-386, 403, 414, 415,
 417, 430, 431, 454, 459
 葬司 123, 128, 130, 140, 162, 187, 189,
 208, 220, 254, 257, 259, 267, 323,
 339, 341, 410, 469
 宗廟 84, 86-88, 90, 91, 103, 104, 416
 即位年齢 51, 218
 尊号 52, 53, 97, 100, 105, 206, 217,
 219, 371, 456
 孫王 56

【た】

大王 1, 10, 45, 47, 96, 114, 115, 218,
 229, 277, 318, 350, 358
 大師 51, 55, 57-60, 65, 67, 200, 218,
 239, 454
 太政大臣 57, 58, 67, 89, 233, 275, 311,
 317, 378, 430-432
 太政大臣禪師 233-236, 263
 大臣外交 184, 274, 275
 大弁 10, 120, 122, 128, 129, 137,
 142-145, 152, 153, 157, 175, 180, 246,
 339, 347, 349, 359, 360
 大宝令 3, 4, 8, 33, 41, 45, 60, 136, 138,
 142, 231, 367, 454
 多極構造 (多極化) 2, 11, 12, 184, 272,
 294, 307, 309, 321, 328, 330, 331,
 403, 404

竹田庄 154, 167
橘奈良麻呂の変 16, 49, 56, 95, 98, 102, 103, 105, 118, 119, 129, 145, 148, 149, 152, 154, 158, 161, 188, 189, 191, 199, 200, 202, 206, 212-215, 219, 419, 454, 456, 460
知太政官事 18, 140, 143, 272, 278, 307, 309-311, 314, 323, 458
聴政 360, 470
中宮職 77, 283, 427, 428
朝覲行幸 14, 350, 371, 383, 424, 426
勅旨所 (勅旨物所, 勅旨省) 24, 194, 247, 248, 252, 284, 303, 313, 343
帝権分離宣言 55, 56, 58-60
天智系 228, 238
天皇大権 1, 4, 13, 18, 39, 51, 56
天武系 196, 207, 231, 310, 361,
春宮坊 (東宮機構) 7, 25, 135, 175, 323, 339, 346, 363, 468, 469, 480
東国国家論 iii, iv, viii
東大寺 38, 47, 48, 80, 81, 120, 128, 321, 393, 414, 454

【な】

内宴 355, 356, 363, 387
内堅省 (堅子所) 247, 248, 343
内臣 12, 13, 15-19, 46, 105, 135, 161, 170-173, 175, 178-193, 195-198, 205, 209, 269-303, 305-307, 309-316, 318, 320, 323, 328, 341-343, 349, 352, 358, 359, 361, 456-459
内大臣 18, 275, 298-301, 305, 306, 312, 315, 317, 342, 361, 458
内覧 383, 385, 386
長岡宮 44, 312, 346, 414
長屋王の変 9, 130, 132, 133, 153, 156-158, 163, 208, 285-288, 313, 320

難波宮 39, 42, 43, 47, 56
奈良麻呂与党 49, 99, 122, 148-153, 156, 162, 166, 181, 188, 203, 212, 213, 216, 218, 243, 419, 456
女院 325, 404, 410, 474, 477
女官 134, 135, 281, 282, 417
ノブレス・オブリージュ 416, 444

【は】

廢太子 vi, 81, 95, 97, 102, 103, 105, 127, 139, 141, 180, 182, 188, 205, 206, 219, 230, 231, 329-331, 337, 363, 418, 419, 422, 424, 434, 454, 455, 468, 469
藩邸の旧臣 25, 468
氷上川継事件 362, 463
悲田院 81, 414, 421, 454
一人諮問 58
不改常典 95, 231, 232, 244, 334, 476
福田思想 81, 108, 414, 454
藤原種継暗殺事件 93, 155, 468, 469
藤原仲麻呂暗殺未遂事件 250
藤原仲麻呂の乱 56, 59, 60, 189, 207, 228, 236, 242, 248, 250, 252, 253, 257, 259, 266, 349, 352, 437
藤原広嗣の乱 194, 211
藤原宮子大夫人称号事件 9
平城宮 6, 35, 44, 56, 73, 77, 92, 95, 145, 250, 291, 360, 373, 374, 466
法王 233-236, 242
母后 7, 14, 20, 73, 361, 381, 396, 397, 404, 413, 414, 418, 419, 421, 425-427, 429, 431, 432, 434, 435, 439, 440, 459-461, 469, 472-474
法華寺 43, 169, 170, 178, 190, 194, 284, 290
弁官 9, 70, 122, 123, 130, 132, 133, 135, 150, 154-158, 160, 173-175, 179, 323,

346, 347, 353, 476

【ま】

マエツキミ層 (大夫層) 8, 10, 12, 25,
129, 132, 144, 357-359
道長院政 (道長王権) 12, 477, 482
殯宮 114, 358

【や】

維摩会 214-216, 219, 265, 398, 402,
411, 436, 437
幼帝 7, 19, 58, 73, 361, 378, 379,
395-397, 403, 413, 426, 429, 461, 469,
470

【ら】

立太子 29, 50, 55, 65, 96, 97, 118,
126-128, 141, 151, 154, 156, 157,
180-182, 188, 205-208, 217-219, 231,
237, 241, 242, 256, 258, 291, 300, 312,
327, 330, 335-337, 365, 369, 418, 419,
455, 463
律令国家 iii, 1, 3, 5, 8, 9, 20, 83, 117,
118, 158, 224, 283
律令制 1, 8-10, 33, 60, 74, 88, 103, 117,
223, 253, 272, 307, 313, 348
令外官 170, 247, 248, 250, 253, 309,
311
鈴印 7, 49, 56, 95, 99, 102, 103, 105

歴史人名

【あ】

県犬養橘三千代 210-212, 278, 279
県犬養広刀自 130, 239
秋篠安人 349
朝野鹿取 139
足利義昭 xi
足利義嗣 v
足利義満 v- vii
足利義持 vii
安宿王 118, 123, 128, 130, 166, 180,
188, 195, 207, 208
敦成親王 438
穴穂部皇子 114, 358
安倍兄雄 351
阿倍石井 162
安倍毛人 339
安倍息道 266
阿倍首名 142
安倍古美奈 44, 351
阿倍佐美麻呂 129
阿倍（布勢）嶋麻呂 122
阿倍（布勢）広庭 122, 137, 163
阿倍（布勢）御主人 122
安倍安仁 139
阿保親王 418
在原業平 429, 431
栗田真人 248
栗田道麻呂 242, 248, 250, 252
伊尹 68
韋皇后 86, 88, 416
飯豊皇女 451

五百枝王 301
池田王（池田親王） 120, 126, 140, 151,
152, 180, 181, 196, 205, 218, 239, 455
石川石足 122, 142, 163
石川年足 122, 181, 293, 295, 339
石川豊成 123, 246, 254
石川豊人 44, 339
石川名足 122, 341
石川難波麻呂 339
伊勢老人 250, 252, 464, 465
石上乙麻呂 132, 163
石上麻呂 143
石上宅嗣（物部宅嗣） 127, 132, 246,
250, 253, 254, 257, 298
一条兼良 325
一条天皇 402
井上内親王 6, 7, 12, 18, 20, 24, 73, 77,
78, 81, 82, 91, 92, 94, 104, 107,
237-242, 256, 258, 327-330, 413, 414,
417, 439, 454
伊予親王 312, 332, 333, 337, 348, 351,
458
陰皇后〔後漢〕 84
宇多天皇（宇多太上天皇，定省親王）
19, 111, 335, 336, 372, 379-405,
407-412, 441, 442, 459, 478, 483
円融太上天皇 401, 402, 404, 405, 412,
450, 459
多入鹿 405
大伴稻公（稻君） 119, 121, 129
大伴牛養 466
大伴兄麻呂 126, 161, 181, 293, 295

大伴伯麻呂 339, 341
 大伴古慈斐 209, 436
 大伴古麻呂 12, 16, 17, 105, 118-123,
 126-130, 132, 133, 141, 145, 148-158,
 160, 166, 167, 180-182, 188, 195, 205,
 207, 208, 436, 455, 456, 480
 大伴坂上郎女 121, 162
 大伴宿奈麻呂 121, 122, 133, 481
 大伴駿河麻呂 121
 大伴旅人 119, 121-123, 132, 136, 142,
 153, 163, 286, 298, 481
 大伴繼人（繼仁） 122, 155, 159, 469,
 480, 481
 大伴永主 155, 168
 大伴道足 132, 137, 145
 大伴御行 121
 大伴室屋 358
 大伴家持 118, 119, 121-123, 132, 154,
 155, 339, 341, 464, 465, 467, 469, 481
 大伴安麻呂 121-123
 大中臣清麻呂 178, 244, 246, 254, 295,
 297, 298, 300, 301
 大中臣子老 297
 大神高市麻呂 352
 王莽 102, 103
 他戶親王 78, 91, 236, 238, 241, 242,
 329, 330, 363
 織田信長 v, xiii
 小野東人 49, 95, 148, 150, 153, 203
 小野毛野 141
 小野篁 375, 376, 406

【カ】

霍光 68, 101
 郭皇后〔後漢〕 84, 102
 郭務棕 274
 笠麻呂 142, 467

葛野王 96, 231
 上道斐太都 148
 賀茂真淵 277
 鑑真 69, 120, 122, 181, 186, 234, 293,
 295
 桓武天皇（山部親王） 19, 43, 44, 78,
 82, 91, 93, 94, 143, 155, 175, 193, 196,
 300, 301, 312, 313, 323, 327-334, 337,
 338, 341, 345-354, 356, 360-363, 365,
 413, 414, 458, 464, 465, 469, 476
 義空 420
 義慈王 274
 魏徵 276, 352
 紀飯麻呂 145
 紀麻路 128, 181, 293, 295
 紀船守 323, 346
 紀勝長 301, 345, 346
 紀古佐美 323, 343, 346, 354
 紀淑光 388, 391, 395
 吉備真備 133, 138, 164, 234, 237, 242,
 244, 246, 250, 254, 256, 263, 295-297
 吉備由利 256
 黃文王 118, 130, 181, 188, 207, 208
 清原夏野 375
 恭（劉某，前少帝）〔前漢〕 101
 行基 40
 金庾信 274
 日下部子麻呂 248, 250
 草壁皇子 327, 338
 百濟王明信 346
 繼體天皇 vi
 惠帝〔前漢〕 101
 元正天皇（元正太上天皇） 5, 12, 15,
 34-46, 50, 59, 61-63, 81, 154, 278-
 280, 294, 309, 318, 330, 360, 363,
 453, 454, 466, 467
 獻文帝〔北魏〕 224

元明天皇（元明太上天皇） 34, 44, 46,
59, 66, 112, 141, 191, 231, 245, 277-
279, 281, 288, 309, 313, 316, 318, 462,
467
光格天皇 i, 326
広義門院（西園寺寧子） vi, vii, 325
皇極天皇（齐明天皇） 33, 60, 114, 115,
223, 269, 276, 277, 281, 288, 318
孝謙天皇（阿倍内親王，孝謙太上天皇，称
徳天皇） 18, 19, 34, 36, 37, 43, 47,
50, 51, 53-60, 64-69, 80, 89, 95,
97-101, 105, 127, 134, 150, 153, 154,
156, 162, 175, 180, 182, 187-189, 191,
194, 200, 202, 203, 205, 206, 212-
214, 217, 218, 227-232, 234-238,
240-244, 247, 248, 250, 252-254,
256-259, 262-264, 278, 294, 296,
304, 305, 313, 327, 328, 330, 331,
338, 339, 342, 349, 352, 357, 432,
454, 456-458, 476
孝元太皇太后（王政君） 102, 103
光孝天皇 335, 424, 434
光厳天皇 vi, 325
高宗（李治）〔唐〕 86, 369
孝徳天皇 269, 277
光仁天皇（光仁太上天皇，白壁王） 6,
18, 20, 34, 59, 77, 78, 81, 82, 92, 127,
141, 228, 237, 238, 240-242, 246, 250,
254, 256-258, 278, 296-298, 300,
305, 312, 314, 315, 320, 321, 327-331,
338, 339, 341, 346, 347, 361, 362, 413,
458, 465
光武帝〔後漢〕 84
杲宝 364
光明子（光明皇后，光明皇太后） 5-7,
13, 15-19, 23, 24, 35, 36, 38, 39, 43,
47, 49, 51, 53, 55, 56, 58-60, 65, 69,

73-77, 79-82, 87, 88, 90-105, 107, 129,
130, 132, 133, 145, 149, 152-154,
156-158, 162, 167, 170, 178, 179,
181-184, 187, 188, 190, 191, 195-197,
199-212, 214-219, 230, 243, 248, 278,
282-288, 290-294, 309, 310, 313, 327,
328, 330, 397, 413-415, 419, 421, 424,
429, 434, 436, 437, 439, 440, 452,
454-457, 460, 461, 468
光明天皇 vi, 325
後円融天皇（後円融上皇） v, vi
後光厳天皇 vi, 325
後小松天皇（後小松上皇） vi, vii
後桜町天皇（後桜町上皇） 325, 326
後三条天皇（後三条院） 476, 477
後白河天皇 325
後朱雀天皇（敦良親王） 474, 475
巨勢邑治（祖父） 132, 298
巨勢堺麻呂（堺万呂，開麻呂） 128,
129, 145, 161, 171, 212, 213
巨勢太益須 141
巨勢徳太 277
巨勢奈氏麻呂（奈豆麻呂） 171, 466
巨勢野足 349
巨勢麻呂 141, 143
後高倉院 vii
後鳥羽上皇（後鳥羽天皇） v, viii
後堀河天皇 vii
後伏見上皇 vi, 325
惟喬親王 334

【さ】

西園寺公望 451
嵯峨天皇（嵯峨太上天皇，神野親王） 5,
18, 19, 76, 312, 314, 332-334, 337, 345,
350, 351, 353-356, 360, 362, 363,
371-377, 384, 387, 397, 403, 406, 409,

- 413, 414, 419, 421-423, 446, 458, 459,
462, 463, 471, 472
- 酒人内親王 465
- 坂上田村麻呂 196, 323, 346, 349, 354
- 早良親王 78, 93, 329-331, 469
- 塩焼王 129, 130, 151, 180-182, 187,
188, 196, 202, 205, 207, 208, 218,
291, 465
- 志貴親王 77, 81
- 重明親王 478
- 滋野貞主 139
- 思託 93
- 持統天皇 (持統太上天皇) 16, 34, 40,
44-46, 50, 59, 96, 223, 229, 231, 287,
288, 309, 352
- 渋沢栄一 452
- 下毛野古麻呂 141, 143
- 淳和天皇 (大伴親王) 77, 82, 312,
332-334, 337, 353, 355, 376, 413, 416,
417, 458, 462
- 淳仁天皇 (大炊王) 36, 43, 50-59, 66,
68, 69, 95-97, 100, 105, 118, 120, 128,
151, 154, 156, 157, 180-182, 188,
205-208, 213, 217-219, 228, 229, 231,
232, 235, 236, 238, 239, 258, 291,
310, 330, 454, 456
- 上官皇太后〔前漢〕 101, 102
- 昭憲皇太后 (美子) 451, 452
- 聖宝 386, 389, 411
- 聖武天皇 (首皇子) 5, 9, 12, 15, 19,
34-44, 46-50, 53-57, 59, 60, 62-66,
69, 76, 81, 91-95, 97-99, 101, 105, 120,
123, 128, 130, 134-138, 145, 153, 154,
157, 164, 173, 181, 184, 187, 200, 202,
204, 206-209, 211, 212, 218, 229, 231,
232, 235, 238, 239, 248, 258, 260,
270, 278, 279, 281, 284, 287, 288,
292, 294, 309, 320, 321, 328, 330,
397, 413, 414, 453-455, 457, 467
- 昭和天皇 (裕仁親王) 33, 451
- 白河天皇 (白河上皇) 325, 476, 477
- 神功皇后 108, 451
- 真徳女王〔新羅〕 223
- 推古天皇 (炊屋姫, 額田部皇女)
114, 223, 358
- 菅野真道 175, 196, 323, 345-347, 353,
354
- 菅原清公 158
- 菅原是善 158
- 菅原道真 158, 335, 380, 382, 383, 385,
386, 411
- 崇光院 vi
- 朱雀天皇 19, 395-397, 403
- 崇峻天皇 114, 115
- 鈴鹿王 137, 307, 310
- 清和天皇 (清和太上天皇, 惟仁親王) 5,
58, 89, 110, 334, 361, 377-379, 386,
397, 400, 403, 404, 407, 424, 426,
428-431, 434, 440, 442, 448, 450,
459, 460
- 善徳女王 223
- 蘇我入鹿 115
- 蘇我馬子 115
- 蘇我蝦夷 115
- 蘇我連子 274, 277, 318
- 則天武后〔唐〕 74, 86-88, 101, 213,
223, 224, 262, 416, 455
- 【た】
- 醍醐天皇 (敦仁親王) 335, 380-389,
391-397, 401, 403, 404, 408, 410, 478
- 大正天皇 451
- 太宗〔唐〕 83, 86, 223, 276, 348, 352,
353, 356, 363

太宗〔宋〕 409
当麻山背 53, 100, 217
平滋子（建春門院） 325
高野新笠 44
高市皇子 231
多治比県守 137
多治比池守 136, 278, 298
多治比国人 123, 145, 150
多治比嶋 245
多治比広足 123, 128, 181, 203, 293,
295
多治比三宅麻呂 163
橘氏公 139
橘嘉智子 76, 77, 82, 93, 94, 107, 314,
337, 397, 413-428, 447, 459, 460, 463
橘奈良麻呂 49, 64, 99, 118, 119, 129,
130, 133, 145, 148-153, 156, 157, 166,
181, 188, 203, 207, 208, 212, 293, 295
橘諸兄（葛城王） 42, 49, 50, 98, 130,
137, 145, 187, 191, 200, 212, 283, 360,
466
長孫皇后〔唐〕 83, 108
長孫無忌 369
奄然 409
褚遂良 369
褚无量 86
恒貞親王 139, 337, 418, 419, 422, 434,
462, 463, 469
貞明皇后（節子） 451, 452
天智天皇（中大兄皇子） 192, 215, 231,
244, 273-277, 281, 310, 352, 458
天武天皇（大海人皇子） 45, 129, 277,
287, 309, 352, 359
道鏡 57, 67, 227, 232-238, 240-242,
248, 256-259, 262-264, 327, 331, 338,
432, 457
道武帝〔北魏〕 223

徳大寺実則 451
独孤皇后〔隋〕 83
舍人親王 52, 53, 100, 151, 217, 278,
307, 456
伴国道 122, 155
伴善男 122, 155, 156, 435
豊臣秀吉 v, xiii

【な】

直仁親王 vi
長親王 256, 327
長屋王 9, 46, 118, 130, 208, 278, 279,
282, 285, 287, 298
新田部親王 129, 151, 181, 207, 286, 465
仁明天皇（正良親王） 336, 337, 371,
375, 387, 406, 410, 418, 420-422, 424,
427, 444, 462, 470-472

【は】

間人皇女 277, 318
班子女王 111, 381, 385, 386, 407
永上川継 464, 465
敏達天皇 358
馮太后〔北魏〕 223
藤原明子 397, 425, 427-429, 434, 435,
437, 438, 447, 460
藤原安子 82, 107
藤原家依 250, 341
藤原五百重 129, 151, 181, 207
藤原威子 475
藤原胤子 385, 401, 410
藤原魚名 170, 183, 186, 190, 197, 246,
254, 269-272, 288, 291, 292, 294, 295,
298-303, 305, 306, 311-313, 315, 328,
342, 343, 458
藤原内麻呂 184, 343-345, 349, 351,
437

- 藤原宇合 137, 285, 301
 藤原小黑麻呂 341
 藤原緒嗣 139, 337, 344-346, 349, 352,
 353, 471
 藤原乙牟漏 19, 44, 78, 82, 91-94, 104,
 107, 312, 327, 329, 330, 337, 351, 413,
 414, 435, 443
 藤原温子 380, 381, 386
 藤原穩子 380, 381, 396, 407, 417,
 439-441
 藤原楓麻呂 266
 藤原葛野麻呂 196, 333, 351
 藤原兼家 311, 401, 402
 藤原兼通 299
 藤原（中臣）鎌足 17, 18, 68, 129, 151,
 167, 170, 181, 186, 187, 190, 192, 197,
 207, 209, 215, 221, 244, 257, 265, 269,
 270, 272-277, 281, 286, 288, 294,
 298-300, 306, 310, 313, 315, 317, 318,
 352, 359, 458
 藤原公季 299
 藤原藏下麻呂 141, 266
 藤原妍子 417
 藤原巨勢麻呂 140, 189
 藤原是公 248, 250, 361
 藤原伊周 299
 藤原定方 395, 410
 藤原実資 402
 藤原実頼 387
 藤原彰子（上東門院） 69, 325, 404,
 438, 439, 449, 473-475, 477, 483
 藤原順子 397, 425-430, 434, 435, 437,
 438, 447, 460
 藤原菅根 382, 386
 藤原娥子 82, 417
 藤原詮子（東三条院） 475
 藤原園人 354, 355
 藤原高子 397, 410, 425, 429-434, 440,
 460
 藤原乙叡 184, 345, 346
 藤原高藤 305
 藤原忠実 67, 473
 藤原繩主 450
 藤原忠平 19, 382, 387, 391, 392,
 395-397, 403, 431, 441, 459, 478
 藤原繩麻呂 127, 242, 246, 250, 252,
 254, 257, 270, 279, 298, 302, 303,
 305, 306, 314, 328, 342, 343
 藤原田麻呂 132, 246, 254
 藤原種継 78, 270, 312, 361, 362, 469
 藤原多比能 130
 藤原継繩 184, 246, 346, 361
 藤原時平 19, 380, 381, 383, 385-387,
 396, 397, 403, 411, 459
 藤原豊成 96, 123, 128, 150, 151, 166,
 180, 181, 186, 191, 199, 203, 205, 219,
 230, 242, 266, 279, 293, 295, 346,
 466
 藤原永手 16-18, 105, 128, 140, 151, 161,
 175, 178-191, 194-196, 198, 203, 205,
 209, 234, 241-244, 246, 247, 250,
 254, 257, 259, 263, 271, 288, 290-297,
 299, 301, 302, 305, 306, 309-315,
 320, 341, 342, 456, 458
 藤原仲成 405
 藤原仲平 396
 藤原仲麻呂 9, 16, 51, 53, 55-60, 65, 67,
 68, 89, 118, 119, 121, 122, 128-130,
 132, 140, 145, 148-154, 156, 157, 159,
 164, 167, 170-173, 175, 180, 181,
 185-191, 194, 197-200, 202-205, 207,
 209, 212-219, 222, 228, 238, 239,
 248, 265, 271, 273, 275, 289-295, 309,
 310, 339, 350, 436, 437, 454, 456, 461,

466
藤原信長 474
藤原教通 299, 474
藤原浜成 464, 465
藤原房前 46, 137, 170, 183, 185, 186,
189-191, 195, 197, 198, 209, 210, 269,
270, 272, 277-288, 291-294, 296-299,
301, 302, 306, 307, 309, 311-315, 342,
345, 349, 458
藤原不比等 45, 90, 130, 141, 187, 209,
215, 235, 244, 259, 266, 278, 283,
287, 288, 316, 436
藤原冬緒 378
藤原冬嗣 184, 334
藤原真夏 405
藤原麻呂 130, 137, 151, 162
藤原御楯 (千尋) 121, 145, 212, 213
藤原道隆 475
藤原道長 60, 325, 417, 474, 477, 482
藤原宮子 64, 77, 120, 123, 128, 187,
208
藤原武智麻呂 137, 187, 199, 266, 279,
286-288, 292, 298, 309, 313
藤原宗忠 67
藤原基經 5, 20, 335, 377-379, 397,
403, 410, 429-435, 440, 448, 459, 460
藤原百川 (雄田麻呂) 141, 250, 261,
270, 301-306, 314, 328, 342, 343, 345,
465
藤原八束 (真楯) 135, 136, 145,
172-175, 179, 184, 194, 212, 213, 270,
281, 284, 316, 345
藤原行成 439, 474
藤原良繼 (宿奈麻呂) 127, 170, 171,
178, 183, 186, 190, 191, 197, 198, 244,
269-272, 288, 289, 291, 292, 294-303,
305, 306, 311-313, 315, 328, 342, 458

藤原吉野 376
藤原良房 57, 67, 89, 139, 337, 419, 421,
422, 435, 446, 448, 463, 471
藤原良相 435, 437
藤原良世 437
藤原頼通 438, 474, 475
武帝〔前漢〕 137
道祖王 57, 81, 95, 97, 102, 105, 141,
180, 182, 188, 205-207, 219, 230, 231,
235, 419, 454, 455
船王 (船親王) 140, 151, 239, 332, 455,
466
不破内親王 130, 181, 207, 238, 465
文帝〔隋〕 83
文室大市 (邑知王) 237, 246, 254, 256,
264, 295, 297, 298, 301, 466
文室珍努 (智努王, 智奴王, 淨三) 126,
129, 140, 141, 151, 152, 162, 171, 180,
205, 209, 230, 237, 256, 257, 264,
327, 466
平城天皇 (平城太上天皇, 安殿親王)
18, 19, 93, 284, 312, 314, 329, 330,
332-334, 337, 345, 347, 349-353, 356,
360, 362, 363, 371-375, 384, 402,
405, 458, 459
卞太后〔魏〕 102
房玄齡 369
北条義時 viii
穗積親王 143

【ま】
正子内親王 77, 78, 82, 90, 94, 107, 314,
397, 413, 416, 417, 419, 422-424, 428,
439-441, 446, 460
正躬王 139
万多親王 300, 332
美智子皇后 i

御名部皇女 66, 112
 源実朝 v, viii
 源融 335
 源時中 402
 源常 139, 421
 源英明 395, 410
 源信 139, 334, 422, 435
 源雅信 483
 源頼家 viii
 源頼朝 viii
 三原王 151, 167, 466
 三原春上 139
 神王 351
 牟漏女王 179, 187, 209-211, 278, 287
 明治天皇 451, 452
 明正天皇 325
 本居宣長 53, 64, 101, 263
 文徳天皇（道康親王） 57, 334, 337,
 418, 419, 426, 446, 463, 470
 文武天皇（軽皇子） 45, 96, 231, 287

【や】

保明親王 336
 山県有朋 451
 山村王 242, 266
 雄略天皇 358
 弓削清人 242, 246, 254, 266
 陽成天皇 335, 378, 385, 401, 410, 411,
 425, 429-434, 441, 442, 448, 458-460,
 478
 代明親王 478

【ら】

李世勣 369
 劉邦〔前漢高祖〕 102
 呂后（呂太后）〔前漢〕 101, 102
 呂尚（太公望） 68

冷泉天皇（冷泉太上天皇） 478

【わ】

和氣王 242
 和氣清麻呂 44
 和氣広虫 352
 和氣真綱 139

研究者名

【あ】

- 相磯達夫 5, 22, 407, 447
 会田大輔 xiii, 223, 224
 阿部猛 165, 479
 阿部武彦 8, 26
 荒木敏夫 iii, x, 2, 6, 7, 11, 13, 14, 21, 23, 25, 27, 28, 61, 65, 66, 69, 74, 77, 79, 80, 107, 108, 112-115, 118, 159, 223, 224, 227, 259-261, 263, 267, 272, 317, 320, 450
 有富純也 3, 21, 37, 62
 池田温 368
 池田昌広 138, 165
 池田幸恵 24, 82, 107, 108
 石井輝義 163
 石井正敏 264
 石井良助 20, 481
 石上英一 93, 110, 111, 192, 320, 409
 石田実洋 481
 石原比伊呂 vi, vii, xii
 石母田正 1-3, 9, 18, 21, 26, 47, 64
 市大樹 62, 165
 伊藤喜良 30, 70, 405, 434, 448, 479
 伊藤循 25
 伊東玉美 412
 井上薫 89, 106, 110
 井上和人 319
 井上正望 110, 386, 407, 409
 井上光貞 9, 26, 322
 井上亘 6, 23, 24, 75, 106, 107, 192, 315
 井原今朝男 27, 70
 荊木美行 197
 今泉隆雄 252, 266, 303, 321
 今江広道 192
 今谷明 v, xii, 325, 326
 弥永貞三 118, 159
 井山温子 24, 75, 107, 221, 222
 入間田宣夫 x
 岩田真由子 407, 408
 岩田芳子 481
 岩橋小弥太 192, 316
 岩本健寿 108, 445
 上島享 27, 28, 69, 325, 326, 482
 上田早苗 109, 110
 上野誠 48, 64, 167
 牛山佳幸 411
 海上貴彦 482
 梅村恵子 7, 16, 25, 29, 443
 上横手雅敬 xii
 江川式部 113
 榎本淳一 264
 榎本涉 445
 榎村寛之 6, 12, 23, 28, 30, 92, 111, 260, 263, 363, 427, 442, 447
 フリードリヒー・エンゲルス 2, 21
 遠藤慶太 85, 109, 317, 365, 420, 445, 450, 471, 478, 479, 481
 遠藤みどり 24, 29, 107, 365, 444
 大石学 iv, xi
 大江篤 446
 大川原竜一 411
 大隅清陽 10, 25, 27, 29, 113, 174, 175, 194, 347, 366, 368

大津透 ii, x, 406
 大平和典 364
 大平聡 2, 21, 64, 138, 159, 165, 261,
 262, 318
 大町健 21
 大山誠一 20, 316, 418
 岡野友彦 vii, xii, 325, 326, 482
 岡村幸子 411, 443, 478
 岡安勇 109
 小川剛生 xii
 沖森卓也 317
 小倉慈司 211, 221, 412
 長田圭介 261
 押部佳周 317
 隴谷寿 410
 尾山篤二郎 160, 167

【か】
 郭茵 113
 笈敏生 4, 5, 22, 29, 33, 61-63, 71, 165,
 194, 316, 405, 480
 笠井剛 25
 勝浦令子 108, 162, 234, 240, 241,
 262-264, 445-447, 450
 加藤麻子 23, 66, 318
 加藤謙吉 25, 369
 加藤友康 412
 鐘江宏之 119, 149, 153, 159, 160, 163,
 166, 196, 318
 金子修一 83, 86, 108-110, 444
 金子裕之 262, 263
 鎌田重雄 109
 鎌田元一 161
 神谷正昌 14, 28, 68, 365, 448, 470,
 477, 479, 481, 482
 亀田隆之 212, 213, 221, 267, 323, 324,
 479

川岡勉 vi, xii
 河上麻由子 68
 川口常孝 160, 167
 川崎庸之 64
 川尻秋生 11, 26, 27, 365, 368, 370,
 407, 408, 410, 411, 470, 471, 478, 481
 菅真城 411
 E・H・カントーロヴィチ 21
 岸俊男 4-6, 22, 64, 68, 73, 75, 105,
 106, 128, 161, 192, 193, 316, 318, 462,
 479
 北啓太 62
 北康宏 111, 261
 北村有貴江 67
 北山茂夫 65, 119, 159, 166, 322, 323,
 364
 鬼頭清明 6, 23, 106, 446
 木下正子 24, 108
 木村茂光 434, 448
 木本好信 56, 64-66, 68, 96, 112, 128,
 160, 161, 163, 166, 184, 192, 193,
 195-198, 206, 213, 219-222, 260, 264,
 266, 267, 279, 300, 316, 318-321, 323,
 366, 483
 京樂真帆子 165
 櫛木謙周 110, 162, 440, 441, 445, 450
 熊谷公男 111, 171, 193, 261, 316, 365
 蔵中しのぶ 110, 111
 倉本一宏 8, 10, 25, 26, 115, 167, 192,
 193, 219, 220, 222, 265, 299, 305,
 306, 316, 317, 320-323, 359, 368, 369,
 448, 449, 478, 479
 栗林茂 446
 栗原朋信 113
 栗山圭子 70, 325, 326
 黒板伸夫 165, 408
 黒須利夫 137, 165

黒田俊雄 iv, xi, 27, 406
 久野雅司 v, xi
 氣賀澤保規 83, 108
 河内祥輔 ii, iii, x, xii, 30, 67, 105, 263,
 365, 405, 448, 479
 河内春人 122, 160
 小島毅 109, 110
 古藤真平 407, 482
 小林崇仁 111
 小林敏男 6, 23, 316, 317
 駒井匠 408, 409
 五味智英 163
 五味文彦 iii, iv, x, xi
 小山雅人 64
 今正秀 168, 335, 365, 401, 404, 407,
 412, 447, 448
 近藤毅大 23, 24, 95, 106, 111, 112, 162,
 197

【さ】

斎藤融 4, 5, 22, 33, 61, 411
 佐伯有清 61, 386, 408, 446
 佐伯智広 vii, xii, xiii, 70
 坂井孝一 viii, xi-xiii
 酒井芳司 58, 68, 262
 坂上康俊 21, 25, 67, 323, 363, 448,
 468, 480
 坂江渉 110
 柴原永遠男 178, 194, 207, 220, 222
 榑佳子 162, 163
 坂本賞三 68, 70
 坂本太郎 21, 26, 317
 鷺森浩幸 23, 63, 121, 135, 144, 160,
 162, 164, 166, 172, 173, 175, 178, 179,
 193-195, 197, 209, 221, 247, 263, 266,
 280, 282, 287, 316, 319-321, 324, 347,
 357, 366, 368

桜田真理絵 22, 29, 65, 107, 112, 365,
 445, 479
 佐々木恵介 68, 265, 365, 448, 478
 佐々木宗雄 410
 笹山晴生 107, 160, 166, 196, 222, 252,
 265, 266, 319, 348, 349, 367
 佐多芳彦 164
 佐藤健治 445
 佐藤早樹子 448
 佐藤進一 iv, viii, xi, xii
 佐藤宗諱 7, 24, 366
 佐藤長門 12, 16, 25, 26, 28, 29, 53, 61,
 65-67, 101, 111, 112, 126, 127, 144, 161,
 166, 180, 195, 231, 232, 260-262, 264,
 358, 359, 364, 369, 379, 407, 411, 448,
 468, 477, 480
 佐藤信 108, 196, 317
 佐藤全敏 315, 324, 447
 佐藤泰弘 62
 佐野真人 112, 261
 皿井舞 411
 澤田浩 167
 繁田信一 405
 篠川賢 261, 322
 柴裕之 xi, xiii
 島津毅 445
 下郡剛 70
 下向井龍彦 398, 411
 東海林亜矢子 24, 106, 107, 407, 412,
 417, 443, 444, 447
 白根靖大 69, 70, 480
 新川登亀男 318
 新城理恵 109, 110
 末木文美士 28
 末松剛 24, 106, 412, 443
 杉本一樹 194
 杉本憲司 108, 137, 165

鈴木景二 29, 356, 368, 405, 446
 鈴木拓也 352, 368
 鈴木琢郎 263, 322
 鈴木裕之 348, 367
 鈴木靖民 62, 163
 角谷常子 113
 関晃 8, 25, 29, 261, 322, 323, 367
 関根淳 13, 22, 23, 25, 28, 106, 113, 164,
 197, 320, 406
 千田豊 25
 曾我良成 70
 十川陽一 23, 27, 106, 161, 179, 193, 195,
 197, 209, 221, 252, 266, 282, 301, 303,
 304, 316, 318-322, 342, 366
 藺田香融 26, 68, 366

【た】

高島正人 119, 159, 160, 166, 322, 323
 高田淳 165, 332, 364
 高田宗平 408
 高埜利彦 xiii
 高橋崇 165, 221
 高橋典幸 xiii
 高橋昌明 x
 高松百香 449, 482
 瀧川政次郎 23, 106, 197, 262, 263
 瀧浪貞子 22, 27, 71, 105, 108, 192,
 263-265, 316, 407, 411, 429, 433, 442,
 447-449, 466, 480
 竹内理三 8-10, 20, 26, 117, 159, 322,
 323, 481
 竹内亮 108
 竹田紀衣 409
 田島公 24, 194-196, 248, 266, 449, 483
 田中卓 261
 田中史生 264, 445, 446
 谷口やすよ 109, 113

谷口雄太 iv, xi
 谷本啓 233, 235, 262-264
 玉井力 14, 28, 70, 71, 365
 田村圓澄 20, 265, 481
 田村葉子 24, 107, 430, 447
 塚本剛 109, 112
 達日出典 111
 土田直鎮 57, 67, 136, 164, 193, 197,
 253, 266, 319
 角田文衛 68, 247, 266, 343, 366, 367,
 410, 447, 448, 479
 手島崇裕 409
 寺内浩 110, 445
 土肥孝 222
 土居嗣和 30, 193, 316, 320, 321
 藤堂かほる 111, 261
 東野治之 16, 23, 29, 106, 160, 161, 163,
 175, 178, 194-196, 198, 220, 234,
 262-264, 290, 291, 320
 富樫進 215, 221
 時野谷滋 263
 所功 166, 383, 407
 礪波護 109
 土橋誠 449
 富田正弘 v, xii, 70
 豊島悠果 109
 虎尾達哉 10, 27, 29, 123, 126, 129, 132,
 144, 161-167, 195, 220, 265, 267, 316,
 322, 323, 357, 358, 368, 369, 374,
 405, 416, 444

【な】

直木孝次郎 43, 63, 64, 324
 中尾浩康 62
 中川収 66, 163, 265, 319, 323
 中澤達哉 21
 永田英明 166

中西康裕 111, 185, 196, 261, 263, 321
中野渡俊治 4, 22, 29, 33, 38-40, 43,
51, 61-63, 65, 111, 261, 365, 378,
405-408, 445, 447, 479, 482
中林隆之 23, 106
中村和樹 411
中村光一 167
中村英重 222, 443
中村裕一 224
中村順昭 23, 24, 194, 247, 266, 319,
321, 324
中本和 479
長山泰孝 8, 9, 26, 29, 117, 159, 368
並木和子 442
成瀬高明 197
西野悠紀子 24, 29, 77, 106, 107, 443,
446
西村健太郎 449
西本昌弘 128, 161, 195, 220, 323, 331,
356, 360, 361, 364, 368-370, 415, 443,
444
新田一郎 iv, xi
仁藤敦史 xiii, 4, 5, 10, 12, 22, 24,
27-29, 33, 38-42, 46, 47, 57, 61-65,
67-69, 111-113, 164, 220, 222, 235,
260-262, 307, 318, 321, 323, 346-348,
356, 366, 368, 369, 405, 411, 412, 445,
446, 451, 452, 480
仁藤智子 18, 24, 29, 30, 59, 69, 106,
107, 260, 263, 278, 317, 318, 321, 330,
363, 417, 422, 423, 442-444, 446, 447,
449, 479
二宮正彦 192, 316
布目順郎 110
野口恵子 167
野口剛 118, 159, 462, 479
野尻忠 110, 445

野村育世 447
野村忠夫 9, 26, 122, 155, 159, 160, 163,
164, 166, 168, 192, 280, 316, 319, 322,
323, 365, 369

【は】

橋本剛 62, 63
橋本義則 6, 23, 30, 43, 62-64, 73, 106,
107, 360, 363, 369, 442, 444
橋本義彦 22, 29, 57, 67, 70, 262, 305,
306, 322, 480
畑中彩子 108
服部一隆 113, 444
濱口重國 367
浜田久美子 196, 408
早川庄八 9, 11, 13, 21, 26, 27, 29, 42,
63, 159, 193-195, 197, 207, 220, 244,
247, 260, 262, 265, 322, 323, 363,
367, 369, 370, 470, 472, 481
林美希 367
林隆朗 107, 112, 193, 221, 323, 368,
445
原武史 451, 452
原朋志 322, 323
原田種成 368
春名宏昭 xiii, 4, 5, 7, 22, 33, 39, 50,
61-63, 65, 95, 111, 193, 194, 224, 318,
320, 322, 323, 363-365, 375, 376, 393,
396, 402, 405, 406, 409, 411, 412,
465, 472, 477, 480, 481
伴瀬明美 70, 411, 444
東島誠 xi
樋口健太郎 xii, xiii, 28, 69, 412, 482
久水俊和 410
平川南 167
廣岡義隆 162
福井俊彦 25, 68, 266, 364, 468, 480

服藤早苗 24, 29, 69, 106, 110, 325,
326, 407, 412, 417, 443, 444, 447, 449,
473-475, 477, 479, 481-483
福山敏男 111
藤井由紀子 222
藤木邦彦 410
藤田勝久 165
藤田覚 ix, xiii
藤田達生 x
藤森健太郎 165
古内絵里子 264
古尾谷知浩 283, 304, 315, 319, 322,
324
古瀬奈津子 24, 25, 28, 106, 164, 281,
319, 404, 407, 412, 443, 450, 473, 481
マルク・ブロック 21
宝賀寿男 160
A・M・ホカート 21
保科季子 84, 109
細井浩志 267
保立道久 389, 391, 408, 409, 423, 446
保母崇 25
洞富雄 20, 481
堀新 v, xi
堀裕 263, 409
堀井佳代子 409
堀江潔 65, 112
堀口修 452
本郷和人 x
本郷恵子 332, 364, 482
本郷真紹 262

【ま】

前田晴人 212, 213, 221
増尾伸一郎 318, 319
俣野好治 188, 196, 197
松尾光 57, 66, 167

松崎英一 68
松本政春 318
松本保宣 137, 165
美川圭 70, 325, 326
水口幹記 409
水野柳太郎 23, 55, 61, 62, 66, 106
水林彪 20, 27
溝口睦子 117, 159, 160
三谷芳幸 110
皆川雅樹 264, 389, 408, 475, 482
宮崎揚弘 444
宮崎健司 449
宮田俊彦 253, 267
村和明 326
目崎徳衛 30, 354, 368, 372, 376, 380,
387, 388, 391, 396, 400, 404-406,
408, 412, 446, 459, 479
持田泰彦 267
望月一樹 367
桃崎有一郎 xii, xiii, 478
森公章 23, 27, 160, 162, 164, 166, 167,
192, 195, 211, 220, 221, 262, 274, 317,
318, 365, 406-409, 423, 443, 445-447,
449
森田悌 111, 261, 387, 408, 446
森本公誠 42, 63, 64

【や】

八重樫直比古 263
八木充 322
矢越葉子 171, 193, 317
矢嶋泉 317
安田政彦 364
安永知晃 109
安原功 70
柳雄太郎 23, 106, 166, 194, 197, 293,
297, 320

柳沢菜々 194, 266
山内晋次 482
山口博 448
山下信一郎 166
山下紘嗣 25
山下有美 106, 318
山田兼一郎 450, 478
山田英雄 322, 323
山田充昭 266, 367
山中裕 62
山本一也 411, 444
山本崇 284, 319, 385, 393, 407, 409,
446
山本信吉 192, 193, 197, 266, 269, 270,
279, 280, 302, 305, 306, 315, 318, 322
山本博文 iii, ix, xi, xiii
山本幸男 151, 167
横田健一 318, 322, 323
義江明子 29, 45, 62-64, 66, 110, 117,
152, 159, 162, 167, 187, 197, 211, 212,
221, 223, 224, 260, 318, 449, 467, 480
吉江崇 168, 265, 370, 481
吉川真司 9, 10, 24, 26, 27, 29, 106,
136, 161, 164, 165, 168, 171, 193, 194,
221, 244, 261, 263, 265, 283, 317, 319,
320, 322, 363, 368, 406, 412, 443,
450, 477, 481
吉川敏子 23, 95, 106, 111, 184, 192,
196, 197, 222, 270, 279, 280, 286, 315,
318, 319
吉田晶 3, 21
吉田一彦 x
吉田孝 21, 117, 159, 222, 264, 265, 366,
367, 444
吉田靖雄 449
吉永匡史 367
芳之内圭 321

吉村茂樹 61, 62
吉村武彦 10, 27, 96, 112, 229, 260,
350, 367
米田雄介 24, 75, 76, 106, 107, 192, 193,
301, 316, 317, 366, 443, 449, 480

【ら】

李成市 264
龍肅 30, 405, 479
ジャン＝ポール・ルー 21

【わ】

若井敏明 263
和田英松 448
渡辺晃宏 166, 266, 321
渡辺滋 318, 408
渡辺直彦 66, 71, 480
渡邊誠 409